歴史寫眞
日獨伊同盟成る
大正二年創刊 第參百參拾號
昭和拾五年
拾壹月號

本號概要

（次第不同）

表紙繪

◆日獨伊三國同盟成る（右よりスターマー獨逸特使、オツト獨逸大使、インデルリ伊太利大使、松岡外相、星野無任相）

口繪

◆源平史蹟 駿河浮島沼
◆紅葉に射しそふ旭光（京都下鴨神社にて）（黑川翠山寫）
◆支那の農人芝居人形
◆佛印ソンカイ河の紅い流れ
◆蘭印土人の妻女とその子達
◆〃落日珠江〃（奉祝美術展出品洋畫）（熊岡美彦畫伯筆）
◆左兵衛佐源頼朝（本朝勇武三十六撰の内）（月岡芳年筆）

色刷寫眞

◆龜山城（日本城郭總覽の内）
◆みのりの秋（銃後勞作十二態の内）
◆國分寺（四國八十八箇所第五十九番靈場）
◆尼ケ崎市（紋章入全國都市巡覽の内）

グラビヤ版

◆大東亞共存共榮圏：（四頁）（一）タイ國の舊領要求、（二）皇軍進駐の佛領印度支那、（三）問題のシンガポール、（四）東亞の寶庫蘭領印度
◆北支蒙疆ニユース
◆皇軍に協力する綏靖軍の活躍
◆日支交渉妥結後の明朗南京
◆我が無敵海の荒鷲の重慶爆撃行
◆壓倒的勝利を博する獨逸軍
◆恐怖のどん底に喘ぐロンドン
◆必死防衛に當るイギリス
◆地中海の王座を狙ふイタリア

單色寫眞

◆日獨伊三國同盟成る
◆皇軍堂々佛印に進駐す
◆第三次特別防空演習
◆最近時事小景

◆◆◆佛印ハイフオンの警備に出動する皇軍部隊◆◆◆

◆◆◆落日珠江◆◆◆（紀元二千六百年奉祝美術展出品作品）（熊岡美彦畫伯筆）

◆◆◆落日珠江◆◆◆（紀元二千六百年奉祝美術展出品洋畫）（熊岡美彦畫伯筆）

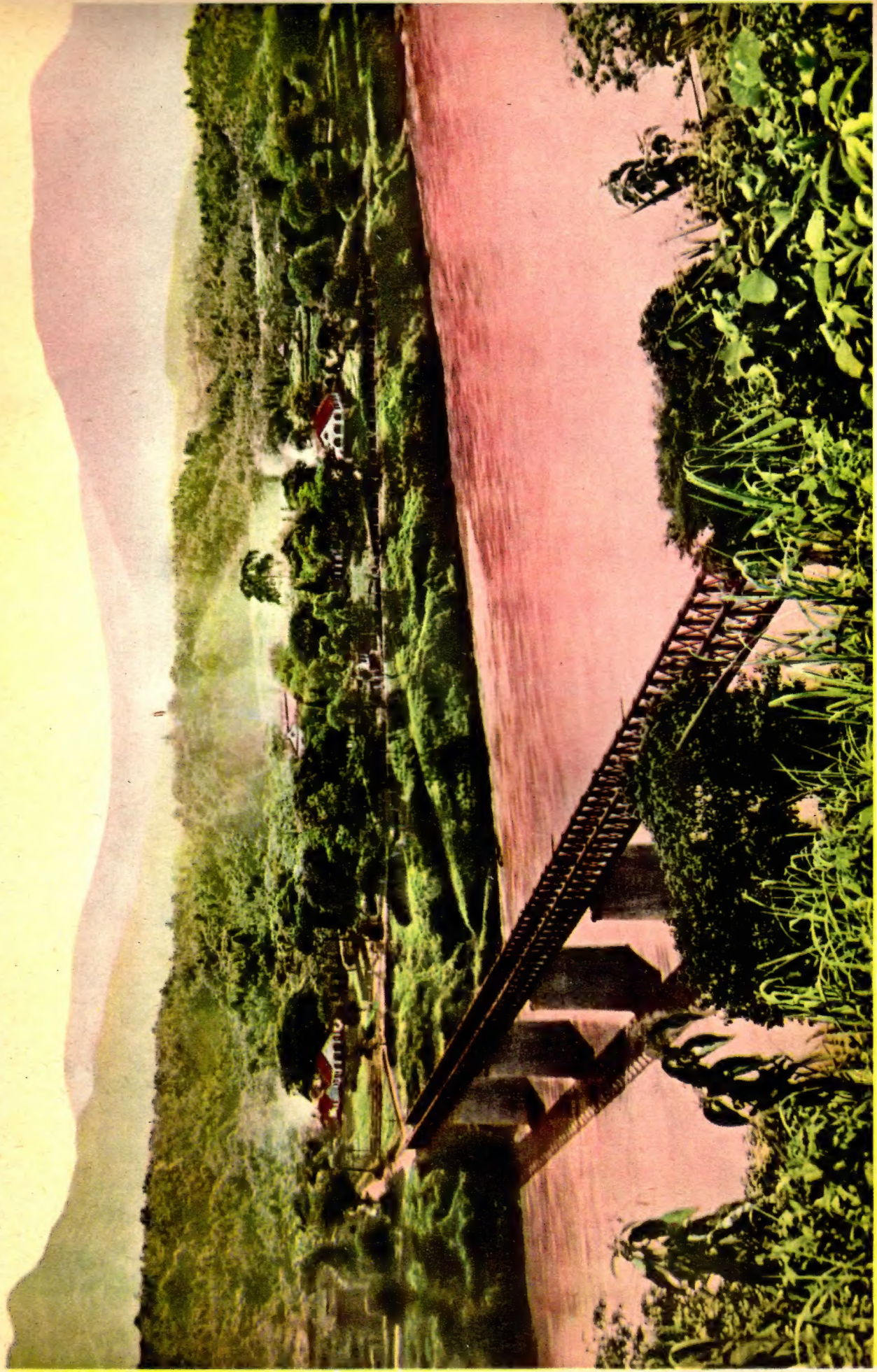
・・・もみぢに映えて射しそふ朝日・・・

（官幣大社賀茂御祖神社境内にて）

（京都　黒川翠山寫）

紅殻を溶かしたやうな佛印河内ソンカイ河の流れ

ソンカイ河は遠く源を雲南省に發し、トンキンの沃野を貫流して河内の近くより東京灣に注いでゐる。ソンカイ河とはいふ紅い河の意であつて河水恰も紅殻を溶いて流したやうであるため此の名がある。寫眞は即ちソンカイ河と是に架せるピジョー橋及び附近の景觀である。

史蹟　駿河國浮島沼の帆影

影ひたす波の入江の富士の根の煙も空に浮島が原（東關紀行）

（治承四年の秋、平家の大軍、水鳥の羽音を源軍の夜襲と聞き誤り、一戦をも交へずして潰走したるところ）

伊勢龜山城

伊勢龜山町の龜山城は、始め關家累代の居城であつたが、天正十五年、岡本下野守代りて此處に封ぜらるるに及び、大に修造を加へ、爾來屢々その主を替へ、延享元年石川主殿頭總慶、六萬石を以て入部し世襲して明治維新に至つた。現子爵石川家は即ち當城の舊主である。城址は參宮線龜山驛の北方に連る丘陵地帶の西一隅にあり、伊勢平野を一望の裡に收めて誠に要害の地であるが、今は全く舊觀を喪ひ、僅かに深い城濠と、その上の高い石垣、並に鯱を屋根に戴く建物の一部が殘つてゐるのみで、眺望豐かな城址は龜山公園となり、園内の正面には舊藩主石川家の祖先を祀る眞澂神社が建立されてある。因に、當城は濱松城の士石井兄弟が、忠僕常右衞門に扶けられて祖父及び父の仇赤堀源五右衞門を討つた所謂龜山仇討を以て古來その名が聞えてゐる。

皇軍に協力する綏靖軍の活躍

揚子江の北方高郵湖、洪澤湖を中心とする地區一帶に蠢動する共產新四軍に對して我が中支派遣軍は、九月五日突如包圍殲滅戰を展開し、作戰僅かに一週間、我方戰死一人も無しといふ好戰果の下に、難なくその目的を完遂した。此の戰ひに當り、蘇皖綏靖軍總司令任援道將軍は、その旗下部隊數千の精銳を率ゐて我が進攻作戰に協參加し、和平建國のために大に氣勢を揚げた。寫眞は何れも綏靖軍の活躍振りで、（右上）揚子江北邊六合の前線に於て作戰を練りつつある任援道大將で、左方に立てる黃其與參謀中將である。（右下）敵を追ふて進軍する綏靖軍。（左上）高地を占領して敵陣を俯瞰し、今や猛擊に移らんとする綏靖軍。（左下）綏靖軍に歸順した新四軍

日支交渉妥結後の明朗南京

阿部大使と汪院長との間に樽俎折衝幾たび、日支國交調整交渉會議は九月三十一日遂に目出度く妥結を見、東亞新秩序建設の最も重要なる基礎工作は玆に全く完成することとなり、南京の天地は又一段と明朗化する觀があつた。寫眞の（**右上**）八月三十一日、日支交渉圓滿妥結し、阿部全權と汪院長とがいと嬉げに乾杯しつつある和やかな光景（**右下**）日支交渉も目出度くまとまり、ほつと重荷を卸した氣持の汪院長が、公館の芝生に客を招じて歡談する有樣を、一かどの**カメラマン**を以て任ずる外交部長褚民誼氏が、**ニュース**映畫社の**アイモ**を借りて得意の腕を揮ひつつある有樣。（**左上**）褚外交部長の**カメラ**に納まれる汪院長。（**左下**）帝國練習艦隊乘組の士官候補生は、南京菊花臺に興亞聖業の華と散つた勇士たちの靈を弔つた

我が無敵海の荒鷲の重慶爆撃行

我が無敵海の荒鷲の重慶爆撃は既に數十たびに及び文字通り巨彈の雨を降らせて敵首都を蜂の巣の如く壞滅せしめ、殊に九月十三日に決行したる第三十五次爆撃の際の如きは、その上空に於て敵二十七機を完全に捕捉殲滅し我が海空軍の威容を彌が上にも中外に宣揚した。寫眞の（**右上**）海の荒鷲の大編隊天空を壓して重慶に殺到す。（**左上**）重慶下流の揚子江巴東附近に於て我が荒鷲の必中彈を浴び、今や爆沈せんとする敵砲艦『克安』（二、三〇〇噸）の最期。（**右下**）海軍警備隊員の夜間對空見張り（**左下**）重慶爆撃行から無事歸還して慰問品に大喜びの海鷲たちである

支那の風俗人形から〝農民の大道芝居〟

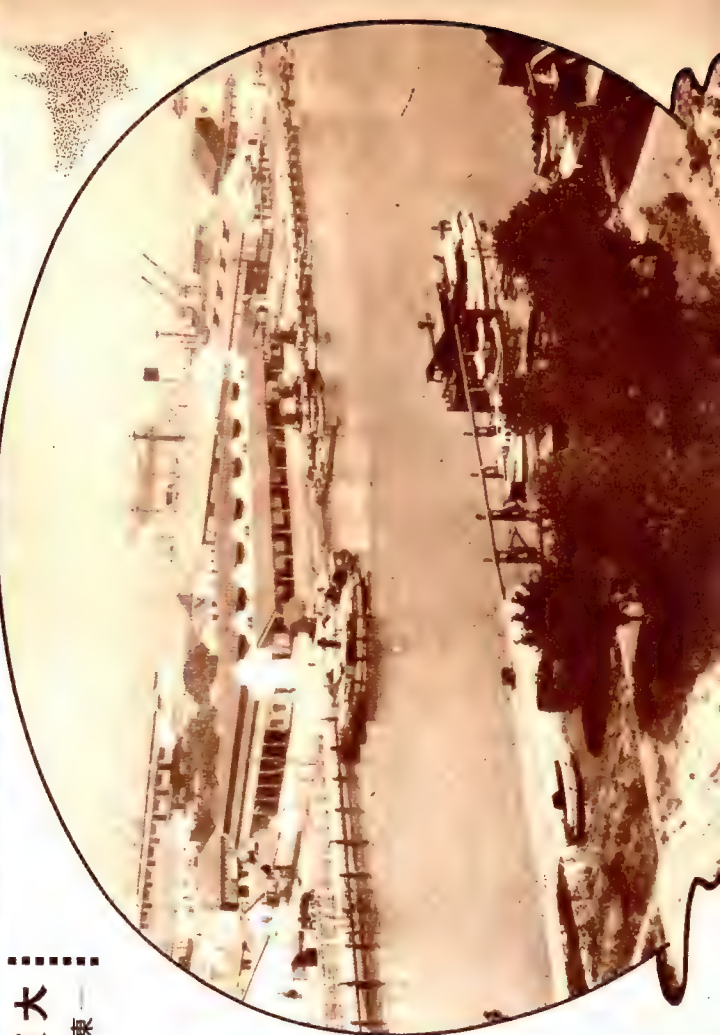
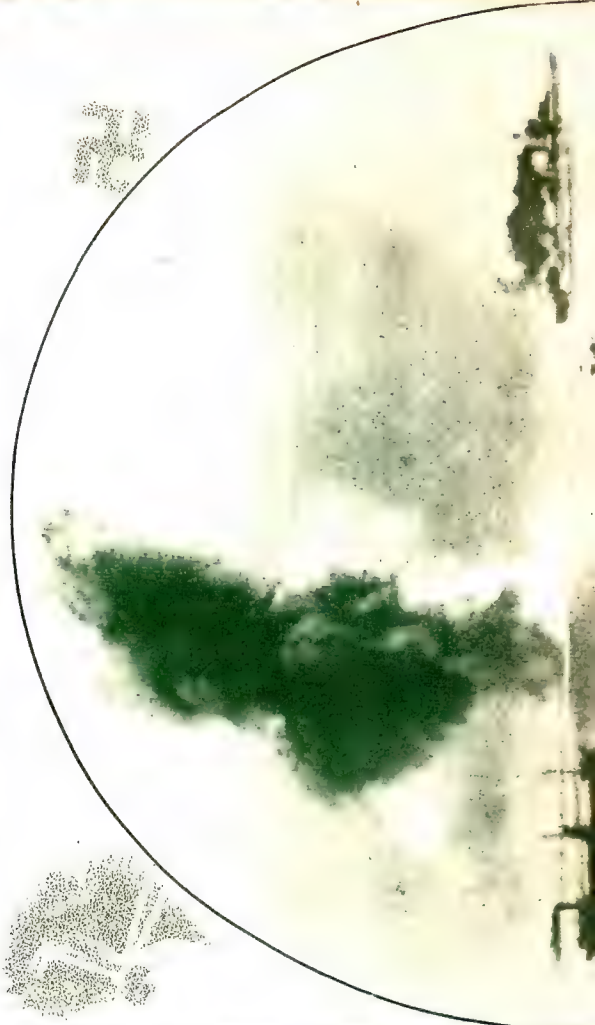
毎年冬の初めともなれば地方農民の青年子女ら農閑期を利用して北京に来り大道芝居を演ずるのである。 （北京　中島幸三郎氏作）

大東亞共存共榮圏（1）

―タイ國の舊領要求―

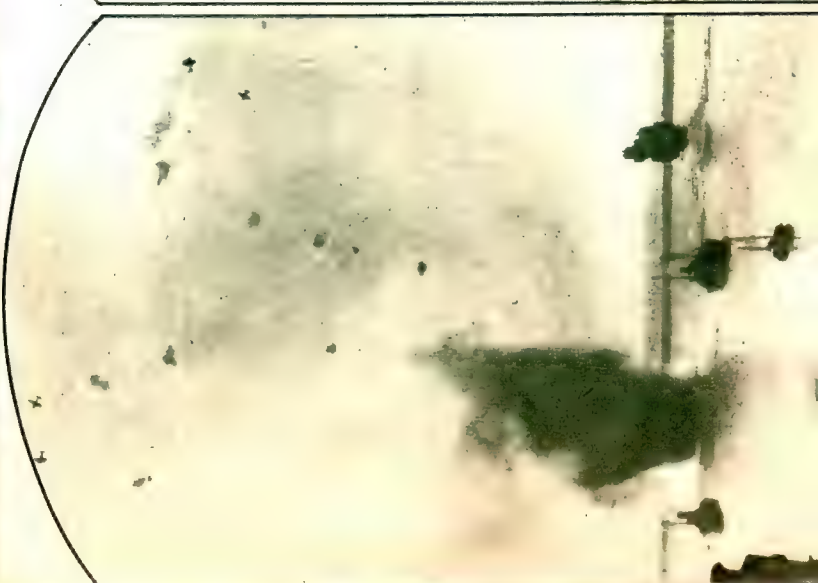
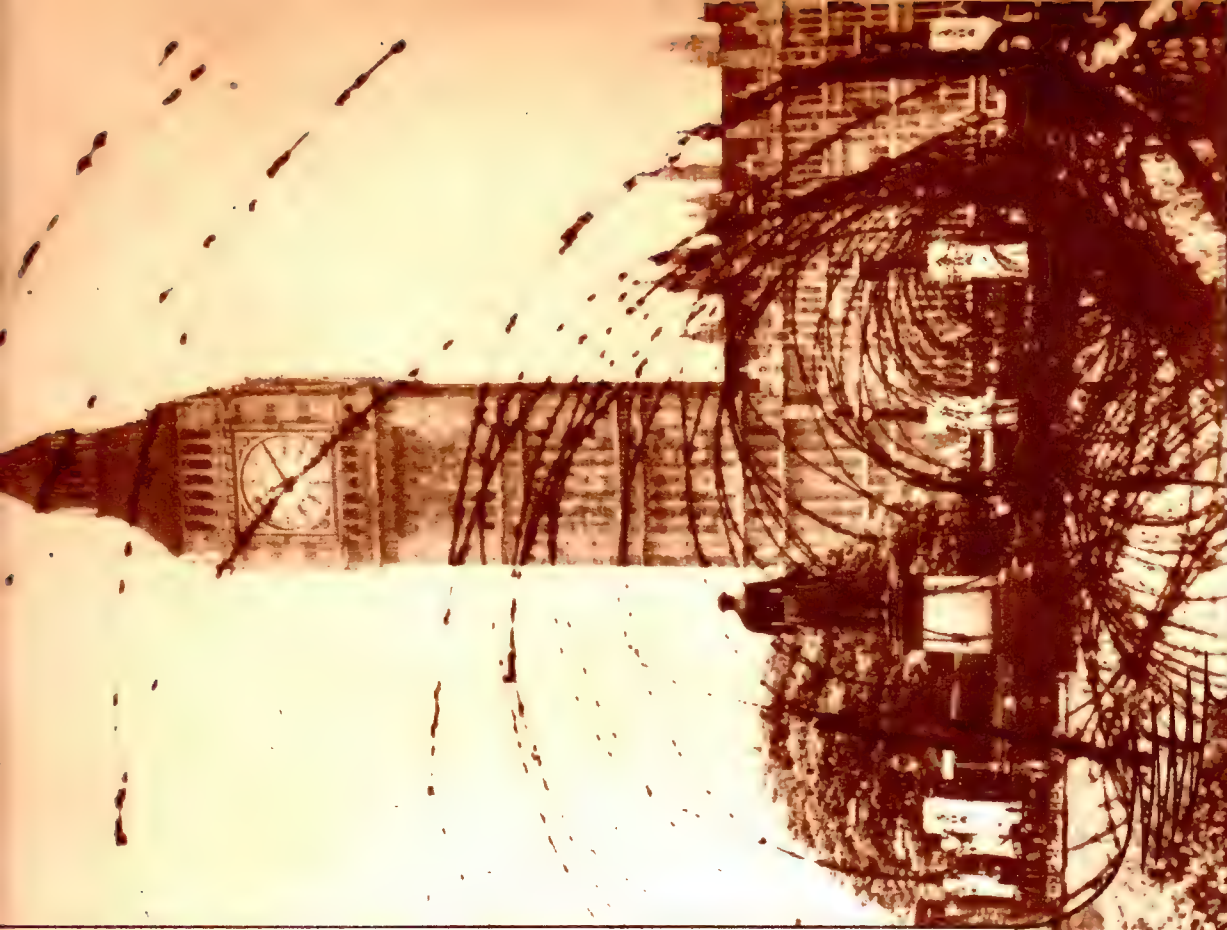
タイ國は、最近フランス政府に對し、自國と佛印との國境に近きメコン河流域の舊領を速かに返還されたき旨要求した。是は卽ち同方面に於ける東亞新秩序の第一聲ともいふを得べく、やがて又大東亞共榮圏の一翼を固むる最も重大なる基礎工作であり、同問題の今後の推移は大に注目されるであらう。寫眞は何れもタイ國の風物で、（右上）タイ國文化の母メナム河流域の土人の家族。（右中）北部地方に於ける廣大な水田の田植風景。（右下）名物の象狩り。（中上）陸軍士官學校卒業式に於て卒業生に勳章を授くる總理大臣ハオンピブン大佐。（中下）首都バンコツクの舞姫。（左）バンコツクの一寺院にある惡魔除の嚴しい立像である

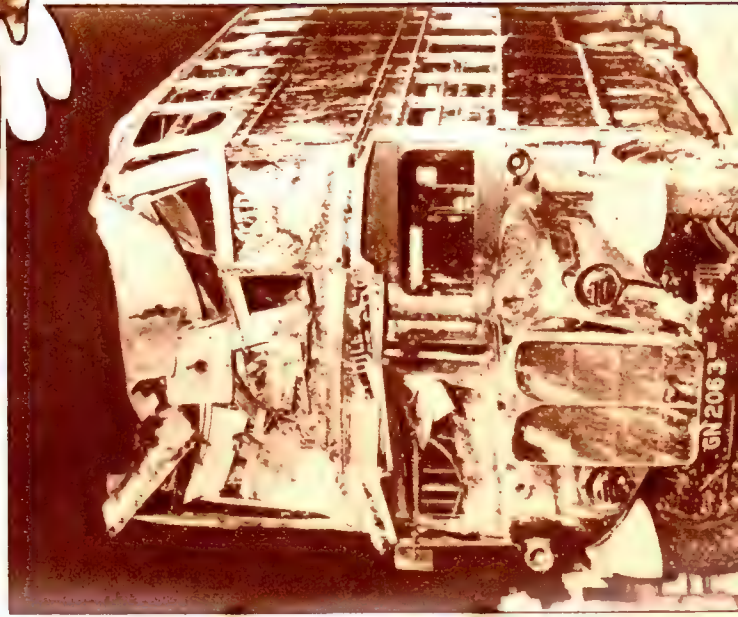
大東亞共存共榮圏 (4)

―東亞の寶庫蘭領印度

小林商相を特派使節としての日蘭印交渉は、三國同盟締結後と雖も何等異るところなく、世界注視の裡に着々進捗し、近き將來に於て必ずや大聲謳歌すべき吉報が齎されるであらう。寫眞は孰れも蘭印の風物で、（**右上**）**ボルネオ**の東南部**サンガサンガ**油田の盛觀。（**右下**）蘭印の門戸ともいふべき**ジャワ**島の**スラバヤ**港で、同港は石油や**ゴム**の輸出港として知られてゐる。（**左上**）**ジャワ**島**バタヴイア**に於ける物賣りの土人の子供で、幼い時から喫煙と賭博が大好き、道ばたに荷を卸して先づ一服とやつてゐる。（**左中**）**サンガサンガ**油田に於ける石油の噴出。（**左下**）日蘭印會議の開かるる蘭印總督官邸の全景。

月岡芳年傑作 ◇本朝勇武三十六撰◇ （其二十三） 『左兵衛佐源頼朝』

對英戰に壓倒的勝利を博する獨逸軍

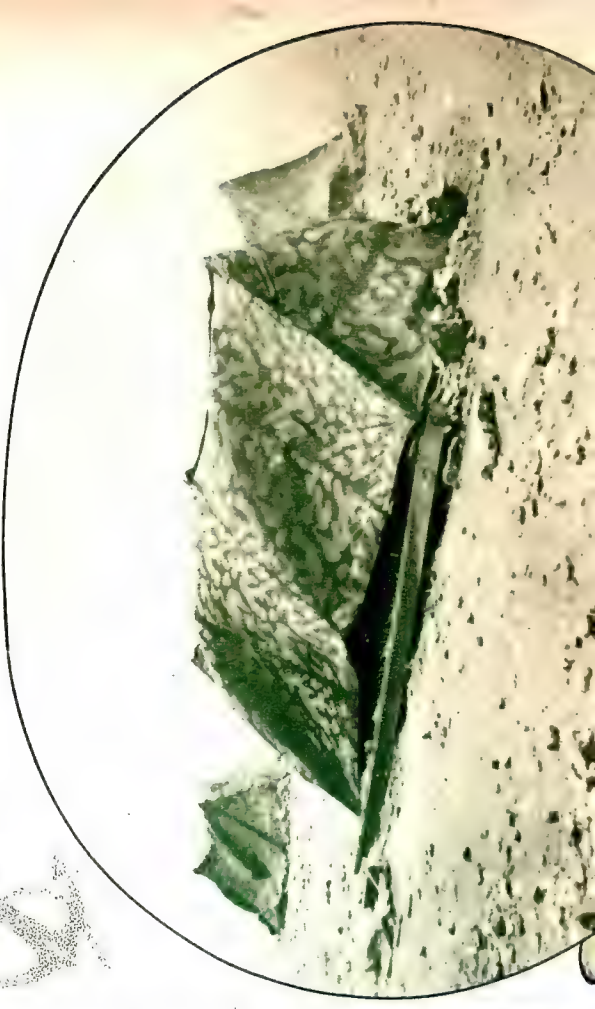
獨逸の英本土上陸戰は未だ開始せられず、或者は此儘來春まで持越されるもののやうに觀測し、又或者は獨逸は必ずしも敵前上陸の冒險を敢てせずともその優秀なる空軍の攻撃を續行することに依り早晩完全に英國を屈服せしめるだらうと見てゐる。兎も角、獨逸空軍の英本土猛爆撃は最近一ヶ月に亘り殆ど晝夜間斷なく敢行せられ、是に對抗する英空軍の勢力は日に日に消耗し、その潰滅も亦或は甚だ近きにあるかと思はしむるものがある。寫眞の（**右上**）北佛海岸の某基地に於て悠々戰略を練る**ゲーリング**獨逸大元帥。（**左上**）衰へたりと雖も尚も中々油斷のならぬ英の反撃に備へ北佛海岸地帯を防備する獨逸兵。（**下右**）獨機、**ドーバー**海峽に英輸送船團を爆撃す。（**下中**）巴里の**エッフエル塔**下に於て**フランス**婦人と談笑する獨逸兵。（**下左**）**ドーバー**海峽に於て英輸送船團を猛爆する獨逸機と高射砲彈の炸裂。

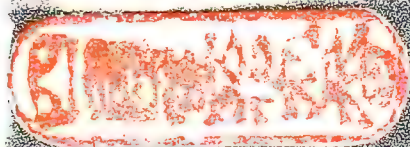
恐怖のどん底に喘ぐ英京ロンドン

日に夜をついで敢行せらるる獨逸空軍の
ンドン爆撃に依り、同市は今や全く此世
らなる地獄圖を描き出し、市民の總ては
日の大半を防空壕内に逃げ込みて戰々兢
殆ど何事も手につかぬ有樣である。寫眞
何れも獨空軍猛爆下の**ロンドン**を示した
ので、（**右上**）**テームス**河畔に聳え立つ
英國誇りの建物國會議事堂時計臺の附近
獨逸軍落下傘部隊の降下に備へ、縱横に
りめぐらされたる新考案の鐵條網。（**左**
アラン・ブルーグ陸軍中將は、最近**イギ**
ス國防軍司令官に任命され、國家の安危
その双肩に擔つて奮闘してゐる。寫眞は
ンドンに新設された或る一つの防空壕を
閲して、今しも壕外に出てきた同中將。（
右）空襲警報解除の**サイレン**を聽き、防
壕からぞろ〳〵這ひ出した**ロンドン**近郊
女子防空團員へ（**下左**）獨機**クロイドン**
襲に際し、爆撃された二階附の**バス**であ

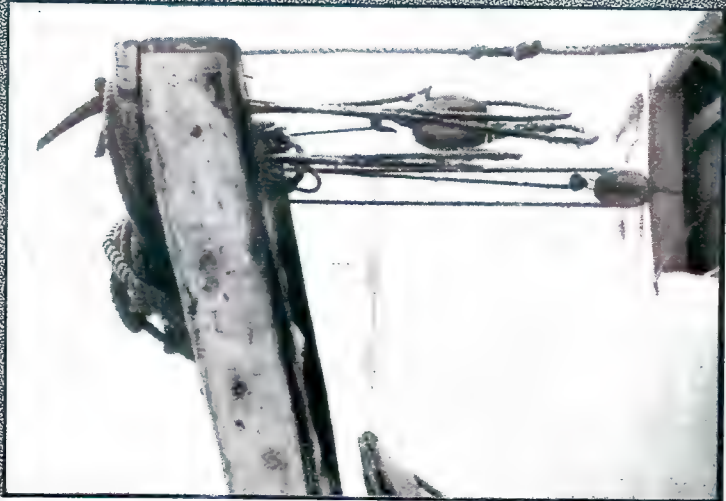
必死防衛に當る全英悲壯の形相

獨逸空軍のロンドン爆撃は、漸次無差別的となり、バッキンガム宮殿の如きも既に數回爆彈の洗禮を蒙り、著名の寺院、美術館、大商店を始め市内繁華の中心地も亦幾たびか猛爆せられ、過去二ヶ月間に於て獨逸のために犠牲となりたるロンドン市民の死傷者數は早くも一萬以上に達するものと見られてゐる。尚此他、英佛海峽に面する各軍港、商港、海岸防備施設、飛行場、軍需工場を始め、ドーバー方面一帶に亘る軍事施設、テームス河畔の各工場、倉庫、船舶等

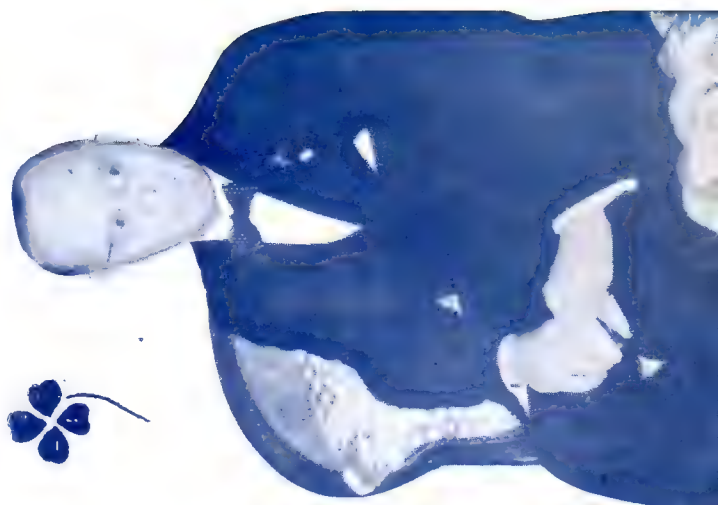
今や全く完膚なきまでに潰滅せられ、同時に英空軍の實力日と共に減殺されてゆくが爲め、獨逸空軍は殆ど意の儘に英本土の上空に於て猛威を逞うすることが出來るのである。寫眞は何れも上下一聯となりて必死防衛に當らんとする全英悲壯の覺悟で、（右上）獨逸軍の上陸必至と見て、東南部海岸に猛訓練を行ひつつある海岸守備隊（左）皇帝ジョーヂ六世陛下がロンドンの某軍需工場に成らせられそこに働く少年工に對し懇ろな激勵のお言葉を賜はるところ。（下右）過去數百年來、ジョンブルの牙城として、又彼等が胸の奥底に描く世界制覇の策源地として榮華の限りを盡した大ロンドン市に在りて、皇帝即位式を始め其他の國家的最重要行事に使用せられたる有名なウエストミンスター大寺院で、此の寺院の傍らにも亦、獨逸空軍の爆彈は遠慮なく投下せられた。（下左）クロイドン飛行場の附近に落下して大穴をあけた慘狀

地中海の覇者たらんとするイタリア

イタリアは地中海の囚人である〃と**ムッソリーニ**首相は叫んだ。地中海のあらゆる出口を閉ざされて常に囚人同様の憂目を見てゐた**イタリア**は、今や猛然として起ち上り、此の桎梏を破り障壁を壊して、一舉に地中海の覇者たらんとし、更に北部**アフリカ**一帯の地から**イギリス**の勢力を驅逐して此處にも明朗濶達たる新秩序の建設を試みんと企て、而もその大理想は着々堅實な歩みを進めつつあるのである。寫眞の(**右上**)英地中海艦隊の撃滅に出動する**イタリア**主力艦(前より)〃**ガフール號**〃〃**シーザー號**〃(**右下**)**エジプト**進軍の直前、北部**リビヤ**最前線の砂漠地帯に露營する**イタリヤ**軍。(**左上**)**イタリヤ**爆撃機に搭載せらるる強力大型爆彈。(**左下**)地中海の**シシリー**島にて、**イタリヤ**軍の防空砲火を浴び眞逆樣に撃墜せられたる**イギリス**戰闘機

◇◇◇ 蘭印土人の妻と其の子達 ◇◇◇

（その容貌や衣服の縞模様など極めて日本的で、深い親しみを感ぜしむる）

『守護のためたてゝあがむる國分寺いよ〳〵めぐる藥師なりけり』

是は四國巡禮第五十九番の靈場、愛媛縣越智郡櫻井町國分にある新義眞言宗國分寺の御詠歌である。寺は金光山景勝院と號し、天平十三年聖武天皇、各州に勅して國家鎭護の道場を設け、是を國分寺と號せしめ給ふた時、此の寺も亦本性上人を開基として創建せられたのである。本尊として安置せらるる丈四尺の藥師如來像は、行基菩薩の作で、伽藍の構造は各地の國分寺に比し遙かに宏莊を極めてゐる。古は金光明寺又は金光明最勝護國之寺と稱し、末寺四十九院を有してゐた。然るに一條天皇の御宇火災に罹り、更に天正の兵燹に燒かれて殆ど廢絶に瀕したが、寛政十三年現存の堂宇を再建し、寺域約二千坪を占めてゐる。寫眞の（右）は境内に數百年を經たる老松『天皇松』と客殿。又（左）は寺の入口より見たもので、左方に高く梢を現はすは『天皇松』である。

尼崎市は『繪本太閤記』の昔から人口に膾炙したところ。大阪府と兵庫縣とを劃する淀川の一分流神崎川から押流した**デルタ**の一漁村『海士ヶ崎』が、後に『尼崎』に作りかへられたのである。舊藩時代には僅か四萬石の城下に過ぎなかつたが、我が國經濟の心臓都市大阪と神戸とを右と左に控へ、工業地帯としても極めて地の利を得てゐるので、明治十二年町制を布いて以來、年を逐ふて飛躍的の發展を遂げ、大正五年市制を施行、現在では人口十萬以上と謂はれ、多數の大小工場を有し一ヶ年の生産額一億圓以上に及んでゐる。又、工費一千萬圓を投じたる築港は『關西の鶴見』と稱へられて市の發展に益々拍車をかけ、かくて海陸交通の至便に惠まれた尼崎市は、日に増し膨脹の一路を辿るのみである。

寫眞の(**右上**)は市の紋章。(**左上**)は工場員達が體位向上、心身鍛磨の爲め猛訓練をなすところ。(**右下**)市内、庄下川遊園地を通りぬけて職場に急ぐ男女工達。(**左上**)港の一景である。

◆◆◆日獨伊同盟の成立◆◆◆

歐洲戰局の激變、極東事變の進展に伴ふ世界新情勢に對處して、日獨伊樞軸の強化は豫てより焦眉の大事と目されてゐたが、最近に至り是等三國間の意見完全に一致し、茲に愈々〝日獨伊三國同盟條約〟を締結することとなり、九月二十七日獨都ベルリンに於て三國代表者間に右條約の正式調印を了し、以上三國は向ふ十年間相互に緊密なる協力を確約した。寫眞の（右上）九月三十日、獨逸大使館に於ける同盟成立祝賀晩餐會席上乾盃の光景で、中央に拜するは閑院元帥宮殿下。（左上）條約成立の功勞者松岡外相。（下右）同盟成立に當り、覆面の密使として活躍したる獨逸特派公使スターマー氏、（下中）九月二十八日首相官邸に於ける同盟交歡會。（下左）三國同盟成立の快報を發表する須磨情報部長

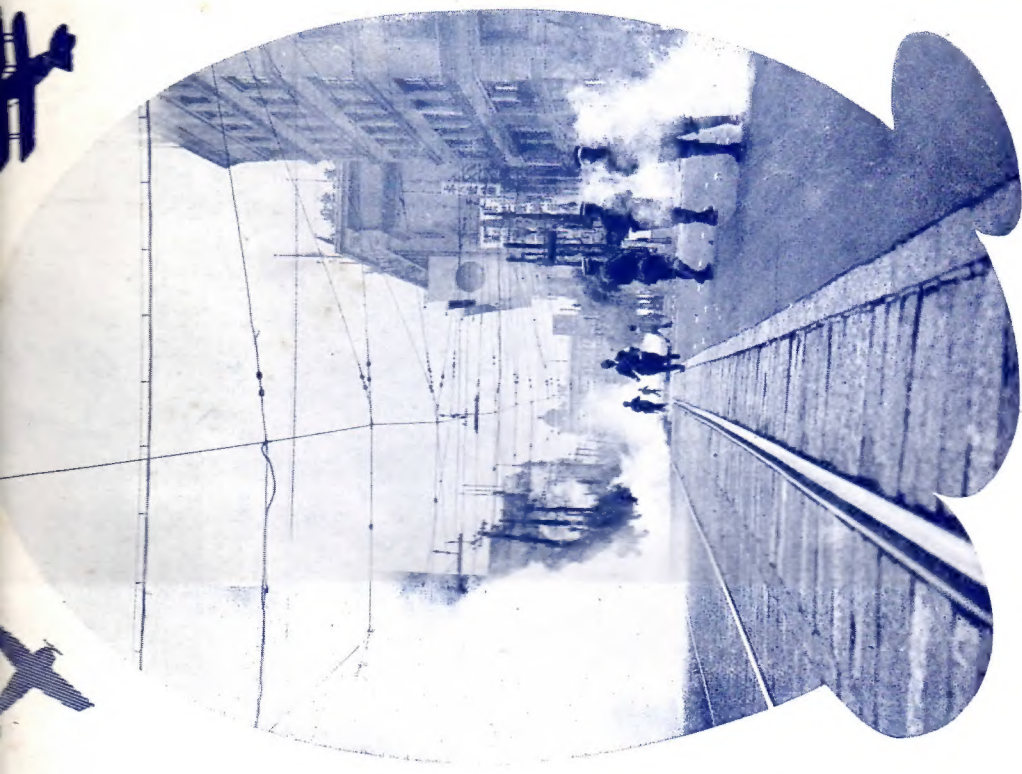
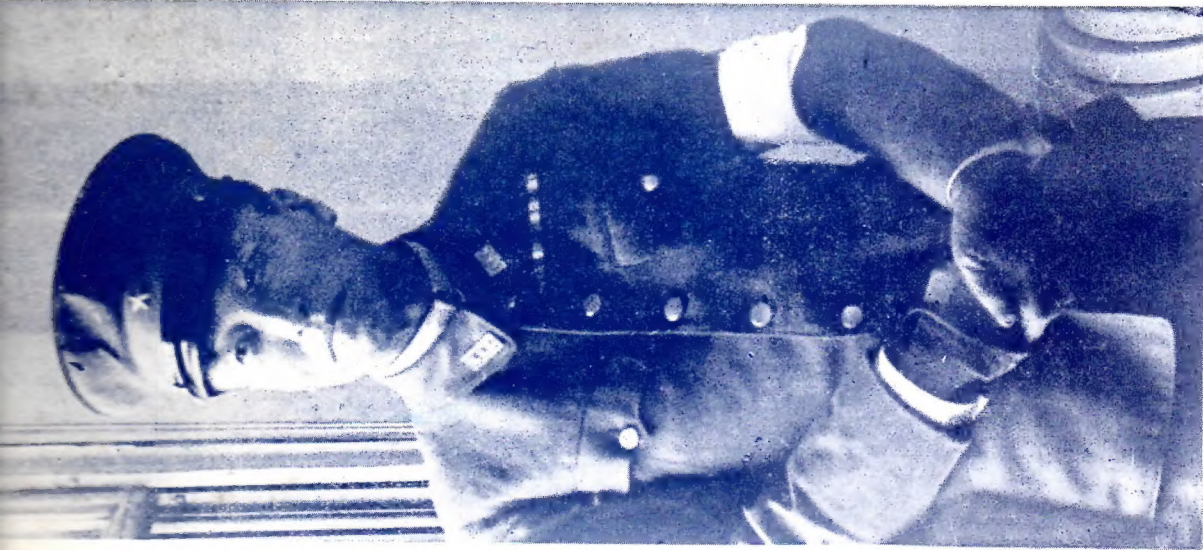
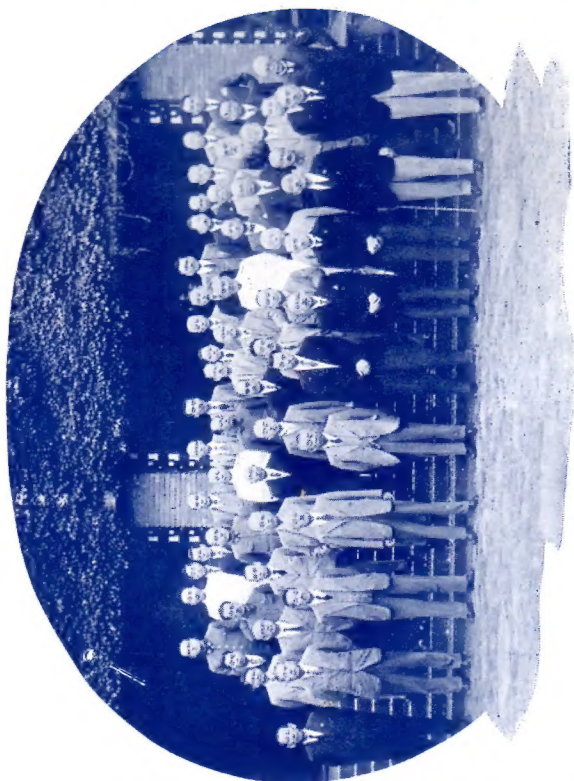
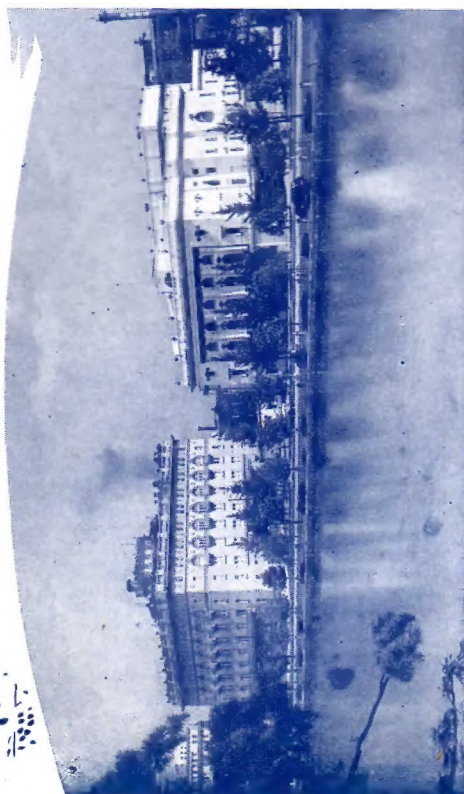
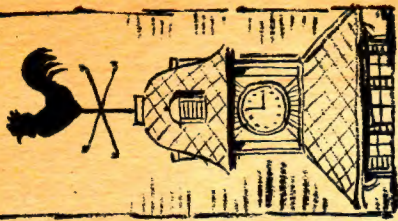
皇軍堂々佛印に進駐す

佛領印度支那當局は、我が日本の目指す大東亞共榮圏の建設に對して、今や全面的且つ積極的協力をなすこととなりたるに就き、我が軍は右現地協定に基き九月二十三日國境を越えてドンダン方面に進駐を開始したが、佛印側の命令不徹底の爲め日佛印兩軍間に一部の衝突事件を惹起したるも、忽ち解決し、爾後我海陸空軍の進駐は極めて友好的に續行せられ、諒山、海防、河内の各都市に於ても皇軍は非常な歡迎を受けてゐるのである。寫眞の（**右上**）海防市中を堂々行進する一色部隊。（**左上**）國境の某要衝を進發する○○部隊長。（**右下**）佛印側の警備隊長、**ドラフオニエ**大尉と會見する一色部隊長。（**左下**）海防港の**バンド**通りを行進する我が部隊

第三次 特別防空演習

本年度、第三次特別防空演習は、畏くも東久邇大将宮殿下を統監に仰ぎ奉り、實戰宛らの攻防戰を展開することゝなり、十月一日より五日まで軍官民打つて一丸となり、眞に涙ぐましいばかりの努力と活躍を以て終始し、その訓練は正に劃期的の錬達振りを示した。寫眞の（**右上**）晝夜お寛ろぎのひまもなく御奮闘遊ばされたる東久邇統監宮殿下。（**中上**）敵機投下の爆煙うづまく銀座通り。（**左上**）帝都空襲の敵機に對し、砲門を開く高射砲隊。（**下右**）東京市防衛課指導の下に、麴町區大手町に出來た豆防空壕で、是でも四五名の大人が收容出來る。（**下左**）日本橋區方面の警防團員が硝煙うづまく敵機空襲下に於て、決死の活動振である。

最近時事小景

（上右）十月一日から上野の美術館に開會の紀元二千六百年奉祝美術展に出品された小倉右一郎氏の彫刻“山田長政”（上中）靜寛院宮樣が御生前御愛用の御佛間を、最近麻布の御庭内から增上寺の本堂脇に移しまゐらせたもの。（上左）新任駐ソ大使建川美次郎中將は九月二十五日夫人帶同宮中に參内し、天皇皇后兩陛下に拜謁仰せ付けられた。（中右）九月三十日日比谷公會堂に公開の柳生心眼流試合の型。（中央）九月十七日、首相官邸に於ける新體制準備委員會の記念撮影。（中左）寫眞の右方は内閣情報局となる舊帝國劇場。左方は大政翼贊會中央本部となるといふ東京會館である。（下右）東京力士九州山事陸軍上等兵大坪義雄君は九月七日東京驛に歸還した。寫眞は九州山關と出迎への藤島取締。（下左）閑地の利用、資源增産の目的から東京中野の愛國婦人會員達は、空地三千坪を開墾栽培して百餘貫の綿を收穫した。

屋上庭園

●十月號表紙『佛印河内の花賣娘』は、皇軍佛印進駐の報によつて一入の魅力を增して實に意義深きものとなつた。御戰死の永久王殿下に謹んで哀悼申上げ次頁元寇防壘の再錄表は時局柄言ひ知れぬ胸打つものがあつた。六頁に亘る時事小景を先に組込まれた異例は面白く、効果百パーセントであらう。皇軍の活躍を最近歸還した勇士の實戰談にきいて寫眞に目を落す時、その勞苦に一層の感謝を捧げてゐる。直接誌上に關係なき投書欄の讀者相互の毒舌をカツトした編の英斷は當然の處置である。但し毒舌も亦餘興として見る時、强ち不評のものではなく、かなり人氣を集めてゐたのだが、筆者自嘲すべしだ。寂しくなつた本欄は昔に歸つて、個々に對する多田氏の回答を希望する。資源愛護の折柄、口繪裏面の餘白を利用する良法はなきか？

（名古屋　黎編生）

●秋冷拾月！　高天の下悍馬嘶き、黄菊垣頭に育ちて紺碧の空に鵯は大きく弧を描く——二千六百年の拾月號。新體制下の世相描寫と時事速報中北白川宮殿下御遺影には謹みて哀悼の誠を捧ぐ。後半、世界新秩序戰の總鑼に太平洋上時ならぬ風浪を豫測せしむる折、〃元寇防壘の跡〃は往昔の奮勵を一入新たにする。文永十一年我國土を震駭せしめた元寇は襲來數年前、愛國の英雄僧日蓮の叫ぶ他國侵逼難に起り弘安四年博多の神風に終る。そして此戰勝は執權時宗の果斷を始め上皇の畏き御祈願、鎌倉武士の勇武等に依るが、勝因の一つとして彼我天地を知れる主將原田種之の作戰が擧げられて居る。當時大陸の集團野戰に卓絕せる蒙古軍至ると聞くや、鎮西將士は北九州一帶の壘に據り、手練の弓箭を以て元兵の上陸を極力拒止した。然る後毎夜艦舟を驅つて敵巨船に斬り込み、敵大船團を漸次孤島鷹島へ追ひ詰め只管天候を待つた。同所は潮流激甚毎年秋颱の最も多く通過する處だそうである。拾餘萬の敵精鋭が悉く大颱風に覆滅し去つたのはそれから間もない事であつた。今津の濱に殘る防壘、筑紫男兒勇戰の跡と思へばそゞろ熱血湧くの地がする。——毎號戰況月報の感ある本誌にも季節の氣配は仁和寺の茶亭に、神鹿に、亂れ咲く野路の芒穗に訪れ、表紙の花賣娘も着想が表題と適切で良好。表紙より版畫迄の色合は歷史畫「平相國」の鮮烈な色彩を効果付ける爲と見る可く、落陽を呼び戻す太政入道の圖柄は堅繪に適した場面である。オフセツトが木版のカラ摺りを巧妙に再出して居る。佳作〃巴里の近況〃敗戰佛蘭西にオルレアンの奇蹟は遂に現はれや歷史の進展は日獨伊に强固なるスクラムを結成させた。好編の本號欲を云へば卷末グラビヤ英伊中邊に異色一頁大の名畫か風景を欲しかつた。尙小生の九月號評末尾英雄鑑云々は名將鑑に付茲に訂正す。

（東京　武藏野泉）

●私は前號に於いて「優秀民族の一致團結」を强調したが、今や日獨伊三國同盟となつて實現した。これから我々は益々自重して未曾有の難關突破に奮鬪せねばならぬものと思ふ「歷史寫眞」十月號は、皇軍の活躍、ドイツ、イタリヤ軍の奮鬪振り、と貴重な寫眞を提供して我々の勇氣を倍加してくれた。其の半面に「茶席遊鶴亭の秋色」「奈良公園の秋」「山村のなりはひ」等の色刷版は、「動中に靜あり」の趣を添へ、日本傳統の藝術境「俳諧味」を多分に帶びてゐる。又「本土防衛に狂奔する大英國」は、正義の伴はぬ老獪外交が白日下にさらされ、必然的沒落を免かれず苦悶にあえいでゐる痛快な寫眞だ。正義、正義、正義に勝つ何者もないと自分は確信する。

（福島相川　遠藤鐵右衛門）

●拾月號感銘記——畏くも金枝玉葉の御身を御散華遊ばされた北白川宮殿下を御哀悼申上ます。誠に國民ひとしく絕大の痛恨事といたす所であります。翠山氏の作は毎度ながらその題材、着想の妙を好む。小生がかゝる靜雅なる寫眞帖に見たり、たゞ縹緲あるのみ。芳年傑作の插繪は豪快なり。今や畫中の人物、躍動するやと思ふばかり、印象に殘る。『時事小景』多彩に富みて樂しく見終る。内容充實せり。日本城郭の久留米城はよき構圖なり。全國も珍らし。今後もかゝる全國を續けて頂きたい。全般に於て最近のヒツト版と云ひたい。敢へて追從にあらず。小生の知識範圍に於て非難批評の餘地なし。時代に即して彼我の投書の論消大いによろし。多田氏特有の個性を發揮せよ。便乘者を排せよ。而して『屋庭』の惡習を一掃せよ。更に而して彼等の明快適切なる再出馬を望むや切なり。

（東京京橋　淺井生）

●屋上庭園と云ふ所は何の爲に有るのか、私は本誌をより良き現實に即應した歷史的な使命を持つたものにせんが爲に良き意見を得ようと投稿を望んで居るのだと思ふ。しかるに長年月片田舍の溫泉につかりふやけた大きな頭、新時代をも知らず本國の様な小さな所で思ひ上つた勝手な熱をふいて居る人、そんな男か女か解らない人の提灯持をする雪國の人、そんなやからにさからひ新時代の偉大なる足並におくれんとする人、富士山は他の小さな山になどかまわずたゞ一つ立つて居る。其の様な愚論を並べ合ふ様な新時代に副はぬ、少ない誌面をふさぐ人達の原稿の登載などやめて馬鹿者を相手にすると馬鹿になると云ふ事を良く知る都會の人の熱心な、誌面の一つ一つに快い批評を寄せるいかにも心やさしい藝術家の様な人の稿だけ登載する様にしたら。九月號にも高校生氏が云つてるではないか、愚者を締せよと。の聲が毎號出るではないか。私は最近北支の第一線より歸つて來た一兵士でありますが、愚論にあきて戰地に在りしばらく遠ざかつて居たので今の様な時代にもうそんな者は無いであらうと思つて歸つて來たが、まだ誌面に異論の登載が續いて居るのでたえられなくなつて一私見を出すのである、幸ひ私の言が入れられ不良文士の一掃が斷行されゝば喜ばしい事と存じます。

（東京の一兵士）

●十月號は九月二十七日に拜受。例に依り愚論を述べる。乞ふ諒とせられん事を。表紙、佛印ハノイの花賣娘を出したのは今月號の白眉。前月號とぐつと趣向を變へた邊り、流石と思はせるもの有り。殊に着物の原色は、見るからに熱帶の國を思はせる。我が元寇防壘の跡の寫眞、もつと良いのが中等學校の教科書にある。海の色も松の色も變です。奈良公園の秋は松並の生えて居る場所に變へた方が良いでせう。相模集印は毎號非常に關心を持つて拜見致して居ります。四國では嫁入り前の娘に一人で遍路參りをさせるのが昔からの風習とか。どの寫眞にも巡り終れば花散る感傷が滲んで居ります。インキの「のり」が惡い寫眞がはげて來ました。採點八十點、尻に鞭打つての奮起を望むや切なり。

（仙臺　岡惠美）

●小生は藝州嚴島の乳臭兒です。始めて入園しました。先輩諸子のお引立を願ひます。扨九月號拜見、表紙繪の美事さには感嘆、大袈裟に言へば心魂を奪はれた。其の壯麗典雅數ある富士の繪畫寫眞の中で最も美と感じました。「須磨の浦の月」も傑作、一見して紙上に涼風を感ぜしめる程、清風は徐に乗つて水波起らず月明かに星稀と言つた情景でありませう。寫眞では「山形城」は無くてはならぬもの。時局物では「英國見童の避難」は戰爭を切實に感じさせる點ですぐれてゐる。多田氏への苦言は他日に讓つて、此の「屋庭」の喧嘩も歷史寫眞の一名物たるを失はぬ。富嶽生、靖子女史の論爭もそんな意味で御靜聽を願ふ。

（藝州　桑谷清孝）

●十月號を見ました。先づ表紙は、もう少し積極的の寫眞が欲しい。精は、一・二頁に比べて、『進路』は見劣りする。最近時事小景は面白く見ました。〃きのふの敵はけふの友〃は實に良いと思ふ。しかし、これを、もう一頁ふやして欲しい。都市巡覽は、はつきりしてゐなかつた。繁華街の寫眞はないですか。歐洲戰爭寫眞には實に感謝する。尙は、屋上庭園を、再び正業にしたのは賢明である。

（靜岡　H・Y生）

●動亂、動亂の世界、破壞と建設の二重奏、どの一部にもそれ等のせわしさが見える。落着いた感じなど現代人には不用なのかしら？　僕が今迄の寫眞を見て特に好きなのは口繪と色刷寫眞等に現はるゝ優雅と氣品を失はぬ數々の寫眞だ。混亂の唯中にこれらの寫眞丈は慰安と反省を與へてくれる。が、さて今迄の寫眞を見て說明をもつと見易くならないだらうか。寫眞が多くなれば成程說明を見易くして頂きたい。特にお願したいのは珍らしい寫眞よりも大政翼贊に現れる建設的な力强い寫眞を多くしてほしい。

（京都　久晴生）

●聖戰未曾有の大戰果事變下多端の出來事を確實に月々報道してゆかれる御苦勞を深く感謝す、歐洲大戰其他時事に關するもの等編輯御活躍より御多忙ならんか、又紀元二千六百年を迎へての國民的感激は今年初頭以來新聞にラヂオに雜誌に日に幾度か繰返されて悠遠なる國史の始源無窮なる國運の隆昌を讃へその慶びの聲は、都市といはず邑里といはず今や全國津々浦々の果てまでも滿ちあふれてゐる。新年から紀元節にかけて各新聞雜誌とも競ふて其の狀況報道なせり、本誌も他誌の到底追隨し及ばざるの活躍をなし總りたる場面を發表せられたる事實は有難き御事に候

（滋賀　愛讀生）

後記

讀者相互間に交はされる本誌に何等かかはりのない惡口雜言は、前號にも申しましたやうに爾今一切抹殺してゆく方針です。毒舌の應酬に依て齎される一種不健全な活氣の如きは決して好ましいものではありません。そこで今後は專ら本誌そのものに課題を置いて大に論議して頂きたい。甲論乙駁、その論調が如何に激越し、又如何に苛烈になるであらうとも、それは決して忌むべきことではなく、華々しい議論の花が咲き、又その花の實が結んで本誌が更に一段と向上してゆくこととなるならば、是れ即ち本園開設の根本趣意に合致すると申すものです。愛讀者諸氏、希くは奮て投稿せられんことを。

（多田生）

◆締切日（毎月七日）◆

世界日誌

自昭和十五年九月六日
至昭和十五年十月五日

◇九　月◇

（六日）去る四日蒙疆某地に於て飛行機事故に依り御痛はしくも御戰死遊ばされたる故北白川永久王殿下の御英靈は、雨雲低く垂れこめて初秋の風膚につめたき今宵、空路御凱旋あらせらるゝこととなり、五時四十分、立川飛行場に御安着、御靈車は官民涙して迎へ奉る中を甲州街道より、新宿、原宿、澁谷、目黒五反田を經て同八時十五分芝高輪なる宮御殿に入らせ給ふ。

（七日）此の夜、獨逸空軍の一千機を越ゆる大編隊はロンドンに大空襲を敢行し、その東北地區に爆撃を集中、アルバート・ドツク及びベクトンのガス會社其他を粉砕、死傷者合計二千人に達したりと報ぜらる。

（八日）此の夜又々ロンドンは約十時間に亘つて獨逸空軍の爆撃を蒙り、主として工場地帶が最も大なる被害を受け、某ガス工場の如きは高さ實に六千フイートの巨大なる火焰を吹いて炎上したり。

（九日）去る四日蒙疆に於て作戰御任務御遂行中薨去遊ばされたる故陸軍砲兵少佐大勳位北白川宮永久王殿下の御武勳に對し、本日行賞の御沙汰あらせられ、功四級金鵄勳章を賜はらせられたり。

（十日）佛印國境に集結中の支那軍は、本日午後四時三十分佛印雲南國境ラオカイの國境橋を爆破したり。

（十一日）イギリス政府は、昨日の獨逸空襲に際し、ロンドンなるバッキンガム宮殿に遲發性爆彈落下、ジョージ六世、エリザベス皇后兩陛下御使用の數個の部屋並に王女殿下御使用のプール等が破壞せられたるが、兩陛下には御不在の爲め御無事なりし旨、本日午後四時を以て公けに發表したり。

（十二日）歐洲大戰亂を他所に見て、日本と蘭印とが平和の手を握り合はんとする日蘭會商の日本使節小林商工大臣は、今朝七時バタヴィアの外港タンジョン・プリオク港に到着、盛んなる歡迎裡に上陸したり。

（十三日）我が海軍航空隊は、本日重慶第三十五次晝間爆撃を敢行し、城内要人住宅を爆撃したり。此日又我が戰鬪機隊は、敵戰鬪機二十七機を捕捉し、重慶の上空に於て悉く是を擊滅し而も我機は全機歸還す。

（十四日）アメリカ海軍は、曩に二百一隻の大建艦計劃を發表し、愈々兩洋艦隊建設に着手すべき旨を明らかにしたるが、又一方米海軍昨年度の建艦計劃に依る同國最初の四萬五千噸級主力艦〃ニュージャージー號〃は、來る十六日を以て着工することになりたり。因に同艦は排水量四萬五千噸、艦長八百八十呎、艦幅百八呎、十六吋主砲九門、五吋副砲十二門、搭載飛行機四機、時速三十節以上なり。

（十五日）イタリア空軍の新型急降下爆擊機部隊は、今朝地中海の英領マルタ島を急襲し、埠頭、飛行場等を木葉微塵に粉砕したりと。

（十六日）我が海軍航空隊は、本日斷雲を衝いて重慶第四十次晝間爆擊を實施し、重慶郊外要人住宅を爆砕したり。尙ほ以上四十回に亘る我空軍の戰果は、敵機擊墜九十二機、地上爆砕敵機五十八機に上ると報ぜらる。

（十七日）チャーチル英首相は、本日下院に於て演說をなし、九月の此の半月間に於ける獨逸空軍の爆擊に依るロンドンの人的被害は、死者約二千、負傷八千に上りたりと述べたり。

（十八日）仰ぐも畏き護國の御忠魂故北白川宮永久王殿下の御葬儀は、本日、朝まだきより降りしきる冷雨の中に執行はせられ、午前六時半の御殿內柩前祭に始まり、靈車宮御殿御發引、豊島岡御葬場の御儀、次で御墓所の御儀に移り、かくて御英靈は哀しくも亦尊く神鎭まり給ひたり。

（十九日）本日午後三時より宮中に於て御前會議開かれ、參謀總長、軍令部總長、內閣總理大臣、陸軍、海軍、外務、大藏、企劃院總裁の各國務大臣、樞密院議長、參謀次長、軍令部次長等出席し、重要國務に就き審議の上、午後六時終了したる旨、內閣書記官長より發表せられたり。

（二十日）本日アメリカ、ワシントンに於て開催せられたる太平洋に於ける英米協同防備強化に關する米、英、濠三國會談に於て米國ハル國務長官は、同國海軍極東の基地をシンガポールに置くべき旨、明白に表示するところありたり。

（廿一日）昆明よりの報道に依れば、曩に佛印國境ラオカイ河口間の國際鐵橋を爆破したる支那雲南軍事當局は、又々滇越線の軌道の大規模なる取外しを斷行すると共に、國境近接地邊に在るトンネルを破壞したりと。

（廿二日）シンガポール政廳當局は、本日、日本人篠崎氏外數名を諜間の爲め抑留したる旨發表したり。

（廿三日）日佛兩國軍事當局は、東亞新秩序建設に貢獻すると共に、支那事變の解決に資せんが爲め、昨二十二日相互間に滿足すべき協定を結び、是に依つて我軍は本日直ちに佛印進駐を開始したるが、國境ドンダン附近に在りたる佛印軍は、命令不徹底の爲め我軍に對し不法抵抗を續けたるも、頓て事件は解決し、我軍の進駐は滯りなく行はれつゝあり。

（廿四日）フランス空軍は、佛領西アフリカのダカール港がイギリス艦隊の爲めに執拗なる砲擊を蒙り大損害を蒙りたるに對し、本日百二十機の多數を以てジブラルタル軍港に報復的爆擊を敢行、是に甚大なる被害を與へたり。

（廿五日）イギリス政府は、佛領ダカール港を徹底的に潰滅する爲めには、大規模の戰鬪を必要とすること明白となりたる爲め、遂に是を斷念し、その關係兵力を同方面より撤退せしめつゝあり。

（廿六日）支那事變戰歿者第二十一回論功行賞は本日陸軍省より發表せられたるが、今回譽れの恩典に浴したるものは、戰死者、戰病死者合計一萬二千六百二名の多數に上り、中にはソ滿國境ノモンハンの撤戰に武勳を樹てたる勇士も含まれたり。

（廿七日）世界新秩序建設を目指す日獨伊三國の意見完全に一致し、是等三國間は夫々の指導的地位を承認し相携へて世界平和の具現に協力せんが爲め、三國同盟を結成、本日午後一時十五分盟邦獨逸の首都ベルリンに於て歷史的調印を完了したり。

（廿八日）本日、宮中鳳凰の間に於て內閣三大臣の親任式執行はせられ、小川鄕太郎氏は鐵道大臣に、秋田清氏は拓務大臣に、金光庸夫氏は厚生大臣に夫々親任せられたり。

（廿九日）本日、イギリス政府はラヂオを通じ、佛領マダガスカル島に對し、『ド・ゴール政權に參加せよ、然らざれば同島を一切の外界より隔絕せん』との最後通牒を發したるが、同島總督レオン・ケーラ氏は直ちに右通牒を拒絕したり。

（三十日）南支戰線に活躍中の青村部隊長青村常次郎大佐は、去る二十五日佛印ドンダンに於て、佛印側の誤解に基く戰鬪に際し自ら陣頭に立つて奮鬪、壯烈なる戰死を遂げたる旨、本日發表せられたり。

◇十　月◇

（一日）第三次東部特別防空訓練は、畏くも東久邇大將宮殿下御統監の下に、實戰宛らの體制を以て、愈々本日より五日間擧行せらるゝこととなりたり。

（二日）オツタワ特電に依れば、カナダ政府は近く日獨伊同盟成立を理由として鋼の對日禁輸を斷行することゝなりたりと。

（三日）閑院元帥宮殿下に於かせられては、參謀總長の御職を御離任遊ばさるゝこととなり、その後任には杉山元大將親補せられたり。因に閑院元帥宮殿下には畏くも金枝玉葉の御身を以て、戰時下帷幄の大任に就かせ給ふこと實に滿八年十ヶ月の久しきに亘らせ給ひたり。

（四日）我が無敵海の荒鷲の精鋭は、市丸利之助部隊長を總指揮官とする大編隊を以て四川省の要衝成都並に萬縣を空襲し、敵機二十一機を擊墜、又は爆砕し、或は豪膽にも敵飛行場に着陸を敢行してマツチの火を放つて是を燒却、全機凱歌を奏し悠々基地に歸還したり。

（五日）昨四日獨伊國境ブレンネルに於けるヒツトラー獨總統ムツソリーニ伊首相の會談に依り、獨伊の對英作戰は今後一層強化せられ、イギリスに於ては獨軍の英本土上陸の危機愈々近迫するとの說盛に行はれ、緊張の氣は更に一段と深きものあり

定價 ㊅ 金六拾錢（送料共）

歷史寫眞第三百三十號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和十五年十月二十五日印刷納本
昭和十五年十一月一日發行

不許複製

編輯發行兼印刷人　東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一二三〇　多田
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同
發行所　東京市神田區鎌倉町八番地ノ二
本取次所